

今月の一 笑 パチンコ店

夫「毎日、出血サービスでよくつぶれないな」

妻「あなたみたいな人が輸血に通うからよ」

(千葉市／石井志津夫)

バルセロナオリンピックが終わり、続いての夏の高校野球選手権大会が終わり、やって来たのが本当の意味のスポーツの秋です。

卓球・ゴルフ・テニス・野球・ソフトボール・水球・サッカー・バレーボール・バスケットボール等沢山の球技が待っていますよ。タマに体を動かしましょう。

スポーツ(SPORT)には勝負がつきものですが、逆から読んでトルプス(TROPS)には勝負は無いと言って、体を動かす遊びを広めている人もいました・・・が、どうなったかな。

7月21日の日経夕刊に載った『川柳』の記事はたまたまその記事を読んだ人に大きなインパクトを与えたようで、知人・友人から電話や手紙が登場の各氏にありました。

今回はそんな所に終わっておりますので、反響の笑介は急遽予定を変更して取り止めました。ゴメンナサイ。

———— バカンスにテレビごろ寝のある日本 (石井志津夫) ————

変集部に届いたお便りの笑介から始めましょう。

『暑中お見舞い申し上げます』(高石市／芝原健夫)

○「マジメも休み休み言え」とは河合隼雄さんの名句です。昔なら「冗談も休み休み」と言っただけですが…。森政弘さんには「非マジメのすすめ」の著書があります。「脱マジメ時代」と言えるようです。

○阪神は亀山効果、巨人は大久保効果がプロ野球を面白くしています。安くて質の良いお買い物は「やっぱり阪神か西武」が流行語になりました。

[ユーモア笑学校の考長は相変わらず、好調に洒落ているようです]

『猛暑が続いていますが、「伝笑鳩」を拝読しながら、ビールを飲むのは最高です。

No.34 拝受、ありがとうございます』(鳩ヶ谷市／郷内末吉)

『お忙しいところをお手紙ありがとうございました。そのうち、又お伺いしたいと思っております。「男はつらいよ」の替え歌を作りました。

♪混んだ電車にもまれにもまれ 毎日通う長丁場 空気の澄んだ郊外にマイホーム持ち

♪いとし妻子の幸のため 今日明日も 今日明日も 俺は行く 行かねばならぬ

この気持ち、涙の出る程、よくわかるのです!』(葛飾区／高橋百合子)

[秋です。寅さんも人恋しくなりかけてきたかも知れませんか]

—— 東京都／小林邦子 —— ♡◇♡◇♡◇ ——

毎月楽しく見えています。現在3人に回覧しています。見るのは楽しくても、自分で考えてみようかなと思ったとたん眼の前が真っ白になって、頭が痛くなります。皆さんの頭の構造はどうなっているのかしらと、いつも思ってしまう。そんな中で一人がやっと絞り出した「ダジャレ？」です。一応、笑ってやって下さい。

—— 長谷川邦男 —— ♠♠♠♠ ——

永~~~~い間、7月号の伝笑鳩の「回覧」を「帰らん」状態にしてしまいました。コメント書こうと、一笑懸命考えたのですが思い浮かばず、7月号らしく、JULY(じゅーりー) 通り読むだけで終わってしまいました。

〔7月号だからうまくいきましたね。9月、September では上手く行きませんよね〕

仙台市の藤沢浪子さんからは地域の皆様と共にシンポジウムの開催に向けて、奮闘努力中というお便りを頂きました。

元気な姿が眼に浮かぶようです。

—— 仙台市／藤沢浪子 ——



来る9月5日・6日に仙台で開催の『高齢化社会をよくする女性の会＝樋口恵子代表』の第11回全国大会…老いを拓くみちのくシンポジウム…の準備の詰めに入り、自分の体力を試されているような毎日。いささか苦しくなり、ひょいと、落書きの替え歌を作りました。

『幼なじみの思い出は……のメロディで。』

♪進歩しようとシンポする 辛抱しながら進歩する

心棒支えてシンポする 辛抱シンポで進歩しよう

お年はおいくつですか？ と聞かれそうなことばかりしています！



そのシンポジウムのキャッチフレーズは『共につくろう幸齢社会～女も男も、民間も行政も、若きも老いも～』というのですが、みんな一緒に頑張ろうという気持ちになるような標語になっています。

—— ダジャレ連発集：広川友雄（京都から愛をこめて） ——

*A「私、A型なの。貴方は？」 B「私はB型よ」 C「僕は新潟だ」



*少年A「夏の日恋はすぐに終わってしまうそうだよ」

少年B「どうして？」

少年A「アキがすぐやって来るから」



*ともお「君って可愛いね、とっても。パンジーの花のようだ」

はなこ「姉もね（アネモネ）」

—— 今月の吹き「小さな売上 大きな溜め息」（東京都／小田明子） ——

下手の考え休むに似たり ⇨ 下手な仮病で休んでニタリ

▼うまくいったと思っているのは自分だけかも。

下手の横好き ⇨ 下手のワープロ好き

▼ワープロの出来ない人に限ってワープロが好きで、人に打たせる。



ヘビを画いて足を添う ⇨ 名前を書いて肩書を添う

▼結婚式などで署名して、つい肩書を書くクセのある人を言う。

ヘビの生殺し ⇨ マドギワのヒヤメシ

▼これ以上の生殺しはない。



芳を百世に流す ⇨ 芳を社内に流す

▼大変な努力がいる。

冒険なければ利得なし ⇨ バブルなければ利得なし

▼バブルを忍ぶ人もいる。

坊主憎ければ袈裟まで憎い ⇨ 課長憎ければシャツまで憎い

▼今ふうには言えこうなる。経験のある人は多いはず。



忘年の交わり ⇨ 定年の交わり

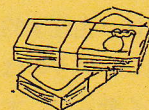
▼もともとは年の違いを忘れて交際する友人。定年の交わりは交際の無い友人。

棒の下にまわる犬は打てぬ ⇨ ボスの下にまわるゴマスリは打てぬ

▼ボスを中心に群がる。

法は使うべし 法に使われるな ⇨ 上司は使うべし 上司に使われるな

▼非常に難しいこと。



忙裏閑をぬすむ ⇨ 暴利勘をぬすむ

▼暴利を得ると金銭や社会に対する勘が狂うということ。

もとの意味は、忙しい中に少しのひまを見出して楽しみを求めること、である。

最近、広報誌や雑誌で取り上げられることが多くなった『サラリーマンことわざ笑辞典』ですが、その苦労を曾田さん本人が回文にしています。

▷リクツミエハツミキンゲンネタニタネンゲンキミツハエミツクリ◁

◁理屈・見栄は摘み、金言ネタに多年元気満つは笑み作り▷

☆☆ タイ人関係

ある教育会社が、対人関係に役立つ新しい講座を開発した。先ず、自社内で評価検討の為のトライアルのセミナーの一つを、アジアパシフィックのメンバーだけで開いた。その中の一人のタイ人が、無表情で言葉にも抑揚が無く相手の気持ちが掴めず困ったと、インストラクターのY氏が語った。タイ人は一般的にそういう感じの人が多いということも付け加えられた。

アジアでも日本でも、対人関係の難しさがよく分かりました。

これぞタイ人関係に効果的な講座だと言えませんか。

☆☆ 志向

子供「ママ、川へ泳ぎに行ってくるよ」

ママ「絶対、中流以上でおよぐのよ」



☆☆ 川柳 天敵と笑顔で飲むも芸の内

☆☆☆ 「新皮質とウタテン族論」 サロンの「差論」シリーズNo.15

人間の理性をつかさどるのは、主として、大脳の新皮質と呼ばれる部分である。

本能的な欲望が「あれをやりたい」「これはしたくない」といろいろの希望を突き上げてくるのに対し、「よし、それはやってよい」「ダメ。それはやってはいけない」こうゆう判断を支えるのがこの新皮質の仕事である。

いわば脳ミソの管理職、きわめて重要なポストである。ところが、この管理職さんはアルコールに弱く、リズムに弱い。お酒が入ると、とたんに仕事をさぼりだし、リズムに浮かされるともうなにもかもどうでも良くなってしまう。

昔から人間のリフレッシュに「酔って 歌って 踊って」の要素が必ず含まれているのはこのせいである。

一日中厳しい“命令決定”をやってきた新皮質は、夜になるとクタクタに疲れ、このままでは明日は重要な仕事をする事が出来そうもない。そこでアルコールやリズムの力を借りて、ゆっくり休息を取る訳だ。あなたが行きつけの店で、酔って得意の歌を唱い、一日の披露を発散したというのは、生理学的にいえばこういうことである。

“うたてん族”というのは、“歌えば天国・族”の縮小形のこと。目をつぶり、首を振り、思い入れよろしく歌って、本人はすこぶるゴキゲンである。歌っている顔は、あまり知性的ではないが、それもそのはず、いま大脳新皮質はアルコールとリズムに助けられて休息中。最低限の活動しかしていない。おかげで明日はリフレッシュされた新皮質の“理想的”活動が約束されるという訳だ。

ジョークを楽しむ我らも、常に新皮質の“理想的”活動が約束される“洒落マン族”でありたい。

デキゴトロジー・ちょっと聞いて〔奥村篤史ライフ実見聞録〕

*最近街頭でチラシを配ってもほとんどの人が受け取らない。ティッシュでもあまり効果が無い。簡単なアルバイトと思った学生さん、何時間掛かっても捌けずお願いしますと嘆願しつつペコペコ配る。

地下鉄入口でチラシ配りの名人に遭遇。ハイどうぞと口早に言いながら次々とチラシを配っている。目線から遙か下、通行人が自然に歩きながら振る手の中にスーッと入るよう極めてリズムカルに配る。何を渡されたか見えないまま、自分の手元にはチラシが一枚、という次第。では、小生も負けずに次々チラシ川柳でも…

次々と手渡すチラシの職人芸	貧乏性今日も手を出しティッシュ山
名人芸拒否寸前にチラシが手	チラシ配りにわが子がダブリ受け取る手
お願いと頭下げられ取るチラシ	屑籠を用意し配るチラシかな

*地下鉄の車内吊り“私立大学フェア”

タヌキが必勝鉢巻きをして「今年はタをヌキンでる年だ」 — タヌキ年? 猿年ですよ。
また応用。受験生がラクダに悠々と乗っている姿。「今年もああラクダいの年です」

門口泰宣 の 替え歌笑歌 (1992.7.24)

♪ラブ イズ オーバー 悲しいけれど 終わりにしよう (ラブ イズ オーバー)
⇒ ♪かぶ イズ オーバー 悔しいけれど 手仕舞いしよう

♪童は見たり 野中のばら 清らに咲ける その色愛でつ
あかず眺む 紅におう 野中のばら (野ばら)
⇒ ♪渡辺は見たり 胆石のハラ ベッドに伏せる 顔色冴えず
あせり眺む 政局におう ミッチーのいばら

♪君の行く道は 果てしなく遠い だのに何故 歯を食い縛り
君は行くのか そんなにしてまで (若者たち)
⇒ ♪君の住む家は 果てしなく遠い だのに何故 歯を食い縛り
君は住むのか ローンを払ってまで



高木正明 の 『コミックどどいつ』 No.7 ('92.7.24) (笑抄)

- ①北方四島いつかは返す 返す返すで手を反す
- ②法と正義で旧ソのロシア 押せば窮鼠が咬む脅威
- ③島は返さぬ支援は頼む 資金が死金になりゃ止援
- ④伊豆の山々月影むせび 近江年老(とらう)逝くエレジー
- ⑤乱立政党タレント候補 政策ともかく顔を売る
- ⑥勝ち目無いからポスター張らぬ 幽霊候補の掲示板
- ⑦切れる別れる騒ぎの穴を 空ける渦中の大穴(だいぬ)妃



— 7月例会参加 ——— 7月24日実施 —

石井志津夫・小田明子・奥村篤史・神山徹・曾田英夫・高木正明・長井敏・野本浩一・
平井幸雄・門口泰宣・横山朝夫

アレッ、女性が少ないね（平井さん）

15人分のお菓子を手配したのに（長井さん）・・・その割には余りませんでした。

神山南朝 の 『如是我聞』（平成4年7月24日）

★★日曜朝のNHK3CH「心の時代」を見ていたら「魔可般若波羅蜜陀」の話が出た。

意味は「大智恵到菩提」で、大は身なきなり、形のないところから生まれる智恵によって菩提に到ることができるということだそうで、夫婦して感心していたら、息子が顔を出して
「お母さんは大智恵、大ボディだよ。それより僕は、魔可般若・・・腹減った」

★★妻の友人のO夫人は下町の生まれで「ひ」と「し」が上手く言えない。

先日おばあちゃんが亡くなって、兄嫁（もう60才はとうに越している）から遺産相続の話が出て曰く。

「早く取り分の分配をしようよ、私だって死に死に弱ってんだから」
勿論、「日に日に」の意味です。

平井幸雄 だ洒落た日がやって来る！

いろんな記念日がこれからも沢山やって来るよ。

8月31日：野菜の日

9月2日：宝くじの日、靴の日、苦痛の日？

9月4日：櫛の日、串の日

9月6日：黒の日、苦労の日？

9月29日：クリーニングの日

11月8日：いい歯の日

11月11日：恋人達の日、いいカップルの日 11月22日：いい夫婦の日

横山朝夫 『熟語笑辞典』からの笑介

恋人は一瓶の酒であり、妻は一つの酒瓶である。（ボードレール）



野本浩一が仕入れた耳寄りな新かくげん

最近女性間の友情を扱ったTVドラマや映画が流行っているようです。

職場でその話をしたら、入社3年目の女子社員が言った格言が可笑しかった。

彼女が短大時代に仲間達と言っていたそうだが・・・「女の友情ハムより薄い」と。

— お知らせ —

次回例会は9月25日（金）です。

会場は内神田社会教育会館の集會室になります。

千代田区総合体育館の8Fです。

お間違えないよう、お願い致します。

〒101 千代田区内神田2-1-8

☎(03)3256-8447

伝笑鳩No.35

発行 1992.8.28

変集鳥 野本浩一

変集協力 曾田英夫／神山徹

奥村篤史／石井志津夫

門口泰宣／高木正明

発行所 同巢会ジョークサロン